

「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題」研究専門委員会・
社会・環境部会部会合同セッション

「総合知」の視点と原子力利用の諸課題—「風評」問題をめぐって
Social Issues of Nuclear Utilization and the Perspective of "Convergence of Knowledge" -
Case of "Harmful Rumor" Problem

(1) 委員会設立の狙いと活動の経過報告

(1) Objectives and Activities of the Special Committee

佐田 務¹

¹JAEA

1. 設立趣旨

原子力をめぐる様々な課題への対処はこれまで、主に工学など自然科学的な視点が優勢である枠組みからの分析や対応が行われることが多かった。しかしながら原子力を取り巻く近年の課題は、政策や法制度、倫理、社会受容などのより俯瞰的な視野で物事を捉える必要があり、人文・社会科学的な視点が優勢な分析や対応が求められているものがある。学会としても、第6期科学技術・イノベーション基本計画に示されるように、自然科学のみならず、人文・社会科学も含めた「総合知」を活用できる仕組みを構築しなければならない。

このため本委員会では、人文・社会科学的な知見（例えば、人々のリスク認知やわが国の文化や歴史的背景、市場経済や政治と行政の構造など）といった側面からの分析をふまえた対応策を検討し報告書としてとりまとめる。本委員会での当初のテーマは、トリチウム処理水の海洋放出をめぐる「風評」とし、検討状況の進展や社会的な状況の変化を踏まえた上で、さらに別のテーマについても順次、手掛けていく。

2. 委員構成

主査 土田昭司（関西大）、幹事 寿楽浩太（東京電機大）、佐田 務（JAEA）

委員 稲村智昌（電中研）、木藤啓子（原産）、桑垣玲子（電中研）、小林容子（JST）、高木利恵子（エネルギー企画広報舎）、高嶋隆太（東京理科大）、竹田宜人（北海道大）、布目礼子（原環セ）、廣瀬大輔（電事連） 諸葛宗男（パブリック・アウトリーチ）、山本隆一（元 JAEA）

3. 経緯

本委員会はこれまで、下記のテーマなどの検討を進めてきた。

第1回 2022年4月18日

本委員会での当面の検討課題の検討と、処理水や風評に関する各委員の所感と情報共有

第2回 2022年6月26日

春年会での社会・環境部会企画セッション「『風評』と『風評被害を再考する』」の報告とその振り返り

第3回 2022年7月22日

関谷直也氏著「風評被害：そのメカニズムを考える」の購読と質疑

第4回 2022年11月4日

2023年春の年会における企画セッションの提案内容

第5回 2022年11月30日

福島大の小山教授による講演「処理水問題における風評被害をどのように解釈すべきか」と質疑

*Tutomu SATA¹

¹JAEA